

第6回近畿周産期精神保健研究会

プログラム（敬称略. タイトル等多少の変更が出る場合がございます。）

【1日目：2月26日（土）】

プレコンgres 企画：近畿周産期精神保健研究会 周産期こころのケア研修班 後援：日本周産期精神保健研究会、周産期心理士ネットワーク	
9：30～（開場） 10：00～12：00	「周産期のこころのケア ～赤ちゃんとの出会いと別れ～」 基調講演 「周産期のこころのケア」 講師：岡田 由美子（加古川中央市民病院・臨床心理士） 座談会 橋本 洋子・管生 聖子・岡田 由美子 司会：白神 美智恵（大阪大学医学部附属病院・臨床心理士） 総合司会：川野由子（地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪母子医療センター・臨床心理士）
12：40～	受付開始
13：00～13：20	会長講演 「出生前診断：その光と影」 演者：遠藤 誠之（大阪大学・産婦人科医師）
13：20～16：40	ワールドカフェ 「人工妊娠中絶に関するグリーフケア」（定員90名） 話題提供：林 伸彦（NPO法人 親子の未来を支える会・産婦人科医師） 米井 歩（大阪大学医学部附属病院・認定遺伝カウンセラー） 管生 聖子（大阪大学・臨床心理士） 司会：上原 優子（大阪大学医学部附属病院・医療ソーシャルワーカー） コメンテーター：堀内 勁（聖マリアンナ医科大学名誉教授・小児科医師） 橋本 洋子（山王教育研究所・臨床心理士）

【2日目：2月27日（日）】

午前の部	
9：15～	受付開始
9：30～	会長挨拶 遠藤 誠之（大阪大学・産婦人科医師）
9：40～10：40	教育講演 「早産児の発達障害と療育へのアプローチ」 演者：谷池 雅子（大阪大学・小児科医師） 座長：隅 清彰（社会福祉法人石井記念愛染橋附属愛染橋病院・小児科医師）
10：45～12：00	一般演題（75分：6題 各発表7分、討論5分） 座長：谷口 英俊（大阪大学・小児科医師） 村上 聖女（大阪大学医学部附属病院・看護師） 1 NICU（新生児集中治療室）入院中の家族支援 一病棟保育士、臨床心理士とファミリーセンタードケアの実践について— 市川 恭子・岩本 寿美子 （地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪母子医療センター） 2 遺伝性疾患を持つ児の家族の「受け入れ」のプロセスを援助する 町田 奈菜莉 （地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪母子医療センター） 3 医療的ケアが必要な子どもの母親へのヒアリング調査から 一周産期からの保護者同士のつながりの重要性— 藤尾 さおり（NPO 法人そらしど）

	<p>4 「入院中の母子関係作り」評価の試み 笠松堅實・永谷 ひとみ・笠松 範子（笠松産婦人科/小児科）</p> <p>5 妊娠後期に成人スティル病を発症した初産婦の精神的な揺らぎをする多職種ケア 野上 美沙子（京都市立病院）</p> <p>6 当院の多職種で行う産後こころケア 小野 洋子・増田 望穂・池田 真規子・安田 美樹・安堂 有希子・佐藤 浩・田口 奈緒・廣瀬 雅哉（兵庫県立尼崎総合医療センター）</p>
12:00～13:00	休憩
午後の部	
13:00～14:00	<p>特別講演 「地域の中で、こどもたちと家族を支える」 演者：荘保 共子（認定 NPO 法人 こどもの里理事長） 座長：遠藤 誠之（大阪大学・産婦人科医師）</p>
14:00～14:10	休憩
14:10～16:00	<p>シンポジウム（5題 発表 15分×5、質疑応答・意見交換 35分） 「母と子と家族を支える専門職の役割 -育てにくさ・関わりにくさに向き合う-」 座長：中本 剛二（大阪大学・医療人類学者） 指定討論者：長濱 輝代（大阪市立大学・臨床心理士）</p> <p>1 社会的ハイリスクを抱える家族への多職種連携 —心理職の視点から— 万代 ツルエ（浜松市子どものこころの診療所・臨床心理士）</p> <p>2 社会的ハイリスク家庭への関わり —小児科医としての役割、小児科医として求めること— 井石 倫弘（社会福祉法人石井記念愛染橋附属愛染橋病院・小児科医）</p> <p>3 生きづらさを抱えた母とその家族に対して精神科医ができること 金井講治（大阪大学・精神科医）</p> <p>4 対人関係能力に困難さがみられる初産婦との関わり 千葉 貴子（社会福祉法人石井記念愛染橋附属愛染橋病院・助産師）</p> <p>5 子どもや家族と相対するという事 —児童相談所の立場から— 岩佐 和代（大阪市こども相談センター）</p>
16:00～16:15	<p>全体講評 窪田 昭男（月山チャイルドケアクリニック） 仁志田 博司（東京女子医科大学名誉教授）</p>
16:15～16:20	閉会